

別紙 会議録(令和2年度酒田市食育・地産地消推進委員会)

1. 報告

●各施策における「2年度 of 取組み(実績)」及び「3年度 of 取組み(予定)」について

出席委員(欠席の場合、幹事[当該事務局])より報告(発言)のあった内容については、以下のとおり。

※進捗状況調査票に記載の内容と重複する場合、省略している場合があります。

※(P、No)は、進捗状況調査票の頁番号及び施策番号に対応しています。

【酒田市小学校長会】

- ・今年度は新型コロナウイルスの影響により人を招いての食事はできなかった。バイキング給食もできなかった。来年度は仕切り直して対応・チャレンジしていきたい。
- ・(P2、No6)新型コロナウイルスの影響により学校が5月の下旬から開始となり、児童の生活リズムが乱れていた。生活リズムを立て直さないと食事もうまく回らないため、学校とPTAが連携して生活リズム調査を行った。生活リズムと合わせて食育を行っていくことが大切である。
- ・(P3、No8)新型コロナウイルスによる休校を逆手にとった取り組みとして、休校期間中に児童が昼食を作るように働きかけた。保護者からも好評だった。
- ・(P8、No23、24)コロナ禍により面と向かって話ができないため、掲示板や放送の工夫を行った。また、セレクト給食として、デザートだけでなく主菜を選ぶ力を身に付けさせた。
- ・生活リズムを絡めた食育が大切。また、最近の児童は朝ごはんを食べてはいるが、パンだけやごはんだけといった人がいるため、朝ごはんの中身が気になっている。

【酒田市中学校長会】

- ・新型コロナウイルスの影響により向かい合っただけの食事ができず、黙食となった。また、調理実習ができなかったため、家庭科の教員が工夫して、家族のためにお弁当を作ろうという教材を作り、彩りよく栄養価を計算し、短時間で美味しく作れる弁当づくりをした。調理実習に代わる取り組みとして工夫している。
- ・(P13、No41)SDGsについて、食品ロスや食べ残しを出さないなどの生徒の関心が高まっている。昨年度、寒鰯まつりによる食品ロスが多かったため、どんぶりの大きさを小さくできないか商工会議所に提案をした。
- ・家庭に対しての啓蒙も家庭科の授業を通して高まっている。生徒がお手伝いをして朝ごはんを作ったり、日曜日の昼ごはんのメニューを考えようという授業があり、作ったものを写真にとってレポートを作って提出させた。これらのように、調理実習の代わりとなる教材を作っており、発想を変えて来年度も感染状況を見ながら取り組んでいきたい。

【酒田市法人保育園・認定こども園協議会】

- ・食育実践研究会において2年計画で行っている、大豆を使った食品はどういうものがあるかについて、それぞれの園で味噌、納豆、豆腐づくりに挑戦した。新型コロナウイルスの影響により、今年度はやれる園はやり、各園でまとめを作った。園長会で来年度について、今までの研究をこのままだと続けられないこともあり、研究会はなくなることにした。すくすくの会(調理の先生の集まり)は行うし、それぞれの年齢を担当している職員同士で悩み事や情報交換を行っていくことも検討している。調査票に書いてあることは続けていきたい。
- ・朝食は身につけてきており食べてはいるが、今後は中身も見えていかないといけない。
- ・ランチルームでは仕切りを置いて食べている。
- ・消毒液に頼るのではなく、手洗いを徹底している。

【酒田市公立保育園】

- ・今年度は新型コロナウイルスの影響により、計画が予定通りに実行できなかったが、これまで取り組んできた野菜作りは行った。
- ・梨について収穫だけでなく成長していく過程を見たり、生産者の話を聞く園もあった。
- ・漁業組合から毎年協力をいただいている(鮭の解体など)。今年度はいかをさばくのを経験した。子どもたちが食卓で見ているのは切られたものなので、さばく過程を知ることと、見たり触ったりするのはいい経験なので、引き続き学ばせていきたい。
- ・(P2、No6)毎月の献立表に「早寝 早起き 朝ごはん」を明記して家庭に発信し続けている。朝ごはんの中身を聞くと、ふりかけご飯、水といった子どもがおり、保護者がそれを食事と捉えていることが問題なので、家庭を巻き込んでの食育がこれからの課題となっていくと思う。また、食事とおやつの区別がついていない子どもがいる。朝にチョコパンを食べている子どもがいるが、私たちから見たらそれはおやつだが、子どもは食事だと捉えているので、課題だと感じている。
- ・歯磨きの指導に力を入れている。幼児期から歯磨きを習慣づけていくことは大事なので、これからもブラッシング指導をしていきたい。

【酒田地区歯科医師会】

- ・(P9、No28)新型コロナウイルスの影響により今年度のデンタルフェアは中止となった。集客イベントのため、来年度も行わない。5月まで学校が休校だったため、子どもたちの生活が乱れた。学校が再開して昼休みの歯磨きことで混乱があったと聞いた。そのため、歯科の健康だよりを酒田市と遊佐町の小学校に配布して活用してもらった。小学校の方針で昼休みの歯磨きを禁止しているところがあるので誤解を解きたくて書いた。小さい子どもは肺活量が少なく、マスクをすると息苦しくなり、鼻ではなく口から息を吸うので、口の中の唾液が蒸発して汚れが口にたまりやすく、歯周病だけでなくウイルスが体に感染しやすくなる。マスクをしても口の中が汚いと、きれいな人と比べて感染のリスクが高くなるので、学校で昼休みに子どもたちに口をゆすがせて口の中をきれいにする機会を与えて欲しい。口の中から守れる健康があるので、それを強く伝えたい。

【酒田市食生活改善推進協議会】

- ・今年度はコロナ禍で事業の中止や自粛を余儀なくされ、出来ることを頑張った。コミセンでの調理実習は、調理室の人数制限により2日間に分けて実施する地区もあった。実習しない地区はレシピを配布した。
- ・(P9、No29)3年前から始めている若者世代のスキルアップ事業はレシピの提供のみとした。
- ・(P18、No78)毎月酒田市広報の1日号に酒田の旬の料理を紹介しており、そのまとめとして昨年度レシピ集「酒田ごはん」を発売した。市民から、レシピを参考にして作ったらほめられたなどの声をいただき、長年頑張ってきた甲斐があったと実感している。
- ・来年度も予定では例年通り事業を継続していくが、出来ることを頑張りたい。

【山形県栄養士会酒田地区会】

- ・(P9、No28)歯科医師会の在宅支援室研修会に講師を派遣している。内容は高齢者の栄養管理、高齢者の栄養評価表、食事形態の選択。交流・情報交換ができて大変有意義な内容となった。来年度も講師を派遣していきたい。
- ・(P14、No49)高齢者の低栄養予防のレシピ集を発行した。山形県栄養士会のホームページでダウンロードが可能で、作りやすい内容となっているので、是非活用していただきたい。

【酒田市社会福祉協議会】

- ・デイサービスセンターいずみ(介護施設)で昼食を提供している。
- ・(P11、No93)今年度は感染予防のため、イベントが中止となることが多かった。バイキングやすし職人を招いての実演すし会食も中止。それでも握った生ずしを食べてもらいたく、新鮮な魚を魚屋から届けてもらい、調理師が握って喜んでもらった。季節の行事食は実施できた。2月に節分の巻きずしを食べやすくして提供していく予定。来年度も行事食は実施したい。また、口腔ケアとして、食事前に口腔体操をして唾液をよく出して食欲を増してもらうほか、食後に歯磨きやうがい口内をきれいにすることを徹底している。

【庄内みどり農業協同組合】

- ・(P15、No60)2年ごとに行っている女性部主催の「まるごと JA 庄内みどり「食」の旅」は、現時点では来年度実施予定ではあるが、新型コロナウイルスの感染状況を見ながらの開催となる。
- ・(P20、No87)青年部事業の「田舎まるかじりツアー」は今年度実施できなかったが、来年度は新型コロナウイルスの感染状況を見ながら開催をしたい。
- ・(P21、No90)青年部主催で、首都圏の小学校に水稻苗の提供、JA管内の小学校に田植えや稲刈りの指導をしている。首都圏の小学校への出前講座は中止となったが、希望のあった7校に対してZOOMでWEB授業をした。来年度も継続していきたい。
- ・(P22、No98)学校給食へ地場産農産物を提供している。酒田市子ども食堂への食材提供は初めての取り組みだった。

【山形県漁業協同組合】

- ・(P13、No42)農林水産まつりが中止となったため、酒田港で水揚げされた船凍いかをドライブスルー形式で販売した。
- ・(P17、No67)県の新型コロナウイルス対策事業により、船凍いかをイカリングに加工して学校給食に食材提供した。昨年度に引き続き2年連続で学校給食に提供した。地産地消の観点からも、来年度も継続していきたい。
- ・(P22、No97)来年度はイベント協力に限らず、この委員会の皆さんの力を借りながら、いかのまち酒田や庄内浜産の水産物をPRして消費拡大に取り組んでいきたい。

【酒田市認定農業者会議】

- ・(P9、No28)市社会教育文化課からの誘いを受けて、10月24日に旧松山小学校において、庄内柿の歴史、剪定、収穫及び販売方法について講演を行った。
- ・いちご狩りを提供している人が多いので、連絡をいただければ調整する。ただし、ビニールハウスで暑いので、夕方か朝早くの方が望ましい。

【酒田市グリーン・ツーリズム推進協議会】

- ・(P20、No84. 85. 86)例年通り野菜・果実の収穫体験や料理教室は実施したが、縮小となった。学校との食育交流活動も縮小となった。年間を通して横浜・横須賀の小学校の教員を招いていたが、コロナ禍で中止となった。苗は送っており、収穫までいったそう。メールでのやりとりはしていた。来年度は、コロナ禍ではあるが、例年通り実施予定である。

【酒田市地域創生部】

- ・地域創生部は産業振興・観光・交流を担当しており、食育・地産地消という観点ではイベント情報の発信

や事業者の支援に取り組んでいる。

- ・(P23、No102. 104)産業振興まちづくりセンターにて、事業者への支援を行っている。事業者の開業支援補助金、つなぐプロジェクト支援補助金、販路拡大支援補助金で支援を行っている。窓口や訪問を通して事業者への支援を行っている。

マッチング支援の例としては

- ①開発支援した庄内産小麦について、利用拡大のための市内食品製造業者等へのマッチング支援として、2社以上つないでいる。
- ②市内酒造メーカーと酒田光陵高校が連携した「酒田の日本酒とニュージーランドのマヌカハニーを使ったはちみつ酒」の開発を支援した。

つなぐプロジェクト支援補助金の支援例としては

- ①酒田産さつまいもを使った焼き芋製造・販売のフランチャイズ事業の展開を支援した。
- 販路拡大支援補助金については、新型コロナウイルスの影響により事例はかなり少ない。
来年度は新型コロナウイルスの状況を見ながら事業を展開していきたい。

【酒田市健康福祉部】

- ・(P4、No12)糖尿病・高血圧予防教室は、集まっでの指導・講話ができないため、自宅のできる生活習慣改善に関する資料の郵送や電話支援で対応した。
- ・(P11、No33)例年行っている「うんち講座」は時期をずらして10月に実施した。
- ・(P13、No43)食生活改善推進員養成講習会について、今年度は中止となったが、来年度は新型コロナウイルス対策をしながら実施したい。
- ・(P14、No49)「酒田ごはん」は好評であり、初版で1500部印刷したが、完売した。追加で1500部印刷したが残りわずかである。
- ・(P15、No57)公共施設の閉館により、栄養講座、いきいき100歳体操などは感染対策のため一部中止して、再開している。ストレス解消やフレイルの防止につながるため、今後も力を入れていきたい。

【酒田市教育委員会】

- ・(P7、No22)春休みが長かったため、生徒の生活リズムが乱れたので、生活リズムカードを作成し、実態を把握して対応した。来年度も新型コロナウイルス感染予防も含めてこういったチェックをしていきたい。
- ・(P9、No27)今年度は新型コロナウイルス対策で教員が忙しく、食と健康についての普及活動があまり実施できなかった。来年度は保健だより等でお知らせしていきたい。
- ・(P15、No59)今年度企画管理課で、つながる食育ということで、学校の栄養士と一緒に子どもたちが自分で作れる朝ごはんを予定していたが、新型コロナウイルスの影響で実施できず、来年度の予算もつかないため、何かの機会に考えていきたい。
- ・(P17、No67)県の補助で、学校給食にさくらんぼ、メロン、スルメイカ、県産和牛を提供した。

【幹事(事務局)[酒田市農林水産部農政課]】

- ・(P11、No33)毎年6月は食育月間のため、市役所1階のフリースペースで、食育関連のパネル展示のほか、今年度は2中の岩本先生から協力をいただき、2中の生徒が作成した郷土料理のレポートも展示して、食育の周知・啓発活動を行った。来年度もこのような取り組みを継続していきたい。
- ・(P13、No42)「庄内砂丘メロンの日」PRイベントとして、7月の中旬に市役所1階のフリースペースでメロンについてのパネル展示、鉢植えをしたメロンの展示などを行った。また、例年秋に農林水産まつりを実施しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により中止となったので、その代替となる地産地消のイベントとして、山形県漁協を会場に酒田市の農産物などの商品(新米つや姫雪若丸の食べ比べセット、庄内柿、

平田牧場の三元豚肩ロースの味噌漬け、船凍いかなど)をドライブスルー形式で販売を行った。来年度もこういった地産地消・食育に関するイベントは継続していきたい。

【幹事(事務局)[酒田市農林水産部農林水産課]】

- ・(P10、No32)食育教室は1回のみで開催となった(スルメイカとサワラを食材とした)。
- ・(P20、No86)緑の少年団の活動として、きのこ学習・植菌体験を実施しており、継続して行っている。
- ・今年度初めての事業として、酒田フェアを開催した。いかのまち酒田を首都圏に発信したもの。首都圏の5つの飲食店と連携して、11月の1か月間、酒田の食材だけを使ったメニューを開発して提供してもらった。具体的には、スルメイカ、米、赤ネギ、庄内柿、飛鳥産キバサ、豚肉を提供した。料理人から酒田の食材について高い評価をもらった。お客様からのアンケートで、こんなに新鮮なイカは初めて、どれもおいしいという意見をもらった。今回は11月1か月だけの開催であったため、その時季の食材しか出せなかったが、四季を通じて酒田には美味しい旬の食材があふれているので、どんどん発信して消費・販路の拡大につなげていきたい。

【幹事(事務局)[酒田市農業委員会事務局]】

- ・(P13、No42)例年、農林水産まつりにおいて農業委員の協力を得て酒田市の農産物の紹介をしていたが、農林水産まつりが中止となったため、実施できなかった。来年度、農林水産まつりが開催されたら、農産物の紹介を継続していきたい。

2. 意見交換

時間の都合上なし

3. 酒田市食育・地産地消推進計画見直しについての来年度のスケジュール(案)

【事務局】

※第4次酒田市食育・地産地消推進計画策定に向けたスケジュール(案)及び酒田市食育・地産地消推進計画(一部抜粋)の資料に基づき説明。

- ・酒田市食育・地産地消推進計画について、5年ごとに見直しを行っている。現在が第3次の計画であり、計画期間が平成29年度から令和3年度まで。つまり、来年度で最終年度(5年目)を迎えるため、来年度計画の見直しが必要となる。そのため、来年度1年間かけて第4次となる計画を策定するため、皆さんに何度か会議に出席していただくことになるので念頭に置いて欲しい。
- ・資料のスケジュール表について、計画書抜粋の資料も見ながら説明。
 - ①スケジュールの1番上の行の食育・地産地消推進委員会は、本日のように全体で出席する会議。全体で確認したい内容や、計画案の確認を行う。3回目の委員会を2月に開催する理由は、令和3年度の取組みの実績などを本日のように委員から報告していただくため。
 - ②上から2行目の食育・地産地消推進委員会幹事会は、計画書一部抜粋の57ページの別表第2に掲載の幹事で組織する会となっている。赤字で修正になっているのはこの5年間で機構改革により部署名が変わったため。スケジュールの幹事会の行が空欄になっている理由は、幹事会は要綱によると、委員会を円滑に推進するために設置すると書いてあるため、必要であれば開催するが、現時点では開催の予定はないので空欄にしている。
 - ③スケジュールの上から3番目の部会について、計画内容の具体的な協議は、委員の中から選任した部会員で構成される部会(食育・地産地消推進計画立案部会/6次産業化戦略策定部会)を設置して、審議していくことになる。計画書一部抜粋の資料の58・59ページに前回の計画策定時に設置した部会のメンバーが記載されている。今回も前回にならった形になるかと思うが、来年度の部会のメンバーは来年

度第1回目の委員会のときに改めて確認する。部会には関係各課の担当者も入っていただく予定。部会は3回程度の開催を予定している。

④一番下の事務局(農政課)は農政課で実施する内容。

- ・配布したスケジュールは現時点での案なので、来年度第1回目の委員会で詳細なスケジュールをまた提示する。
- ・具体的には来年度からの協議となるが、差し当たり来年度計画の見直しが入ることについて念頭に置いてほしい。また、来年度委員が変わる団体は来年度に計画の見直しが入ることを後任に引き継いでいただきたい。
- ・最後に、計画の見直しに向けて、今年度中に進めておきたい作業が2つある。1つ目が、現在の食育・地産地消についての現状と課題などを把握しておきたいので、調査票という形で2月頃を目途に委員と幹事(関係各課)に送付して照会するので、ご回答いただきたい。2つ目が、市民向けに食育・地産地消に関するアンケートを行いたいので、農政課の方で今年度から準備を進め、新年度になったら実施したい。来年度の第1回目の委員会で結果をお知らせする予定。

4. その他

【事務局】

- ・国と県で今年度、食育計画の見直しを行っている。酒田市の次期計画は上位の計画に足並みを揃えつつ、現計画の数値目標の達成度合いを整理し、地域性なども加味して策定する。アンケートは、その助走として行うものなので、ご理解とご協力をお願いします。
- ・本日の会議録は、委員の皆様(欠席委員も含む)には後日、メールまたは郵送で送付する。
- ・会議録は、情報公開として、市ホームページで開示する。
- ・年度変わりの時期になったので、新年度、人事異動などで委員を交代される方は、来年度の計画見直しなど、後任者に引き継ぎを忘れずをお願いしたい。

以上